

【施策評価調査】

施策名	5-3-1	地域協働団体等の育成と支援		119	生涯学習は、町民一人ひとりが自発的な意思により、自己の充実、啓蒙や生活の向上のため、適切かつ豊かな学習の機会を利用し、自分に適した手段、方法を選択し、一生涯をとおして行うものです。その実現に向け、学習意欲が持続されるよう、様々な自然体験、社会体験、交流活動の機会を充実させる施策を実施するとともに、生涯学習を支える地域協働団体を育成し、住民自らの能力開発と自己実現を支援し、学習を通じた人とのふれあいを豊かにするよう施策を展開します。
		高根沢町地域経営計画2006 該当ページ			
担当部課	教育部生涯学習課	担当 リーダー	社会教育担当 横塚恵子		
環境変化	近年、社会環境が大きく変化し、生活様式、価値感が多様化し、住民の要望が多様化していると言われている				生涯学習に関するボランティア活動や、NPO法人*等の活動に対する支援を充実させるとともに、生涯学習の充実を目指して、地域協働団体の育成と支援に努めます。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：新規の育成数・支援団体数	平成16年度	計画	15団体	25団体	35団体	43団体	50団体
		実績	7団体	15団体	22団体	27団体	
指標：		計画					
		実績					
指標：		計画					
		実績					
指標：		計画					
		実績					
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	74,000	83,000	129,000		
	決算	104,000	50,708	77,120		

事務事業事後評価 20年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか？(アウトカム)			
地域協働団体等支援事業費	当初 129,000	ボランティアメッセージ参加人数	A	計画どおりの参加者を得ることができた。各学校、地域団体の組織も強化し、行政との連携もかなり充実し、浸透してきたように思う。学校支援のボランティアも活発に活動し、子どもたちの育成に地域の力が注がれてきていることが確認できる。			
	決算 77,120	248人 / 200人		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	
	当初						
	決算	/		今後の方向性(自己評価)		今後の方向性(総合評価)	

施策事後評価 20年度の検証

	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
自己評価	地域の支援団体数は、計画どおりに達成することはできなかったが、事務事業は順調に進められたものと評価する。各地域にこうした支援団体が生まれるよう、行政は支援していくことはもちろんだが、既団体もさらに充実できるような活動の機会の場を提供していく。	NPOやボランティア団体を継続的に、また活発に活動していくよう支援していく。
総合評価	<p>■ 総合評価 ■</p> 継続的に施策展開されていると評価する。 ただし、後期計画策定に向け、住民協働推進計画の動向を見極めながら、「地域教育力」の活用をするためにどのような手法が良いのか、単発的に事業を行うのではなく、他の分野の施策などと抱き合わせにより、一層の成果をあげていくなど、手法を改善すること、生涯学習は自由な発想が可能な分野であるので、他課や関係機関、NPO団体等との連携を図った施策展開を検討すること。 また、それに併せた施策指標も見直すこと。	